

平成25年7月19日

報道関係各位

 **富士急ハイランド**

富士急行株式会社
株式会社富士急ハイランド

この夏 戦慄迷宮がさらなる恐怖を伴って再生する

最**恐**戦慄迷宮

— 暗黒病棟 —



富士急行株式会社（山梨県富士吉田市、社長：堀内光一郎）は、2013年7月27日（土）、富士急ハイランドの誇る世界最恐最長クラスのウォークスルー型お化け屋敷「最恐戦慄迷宮」をリニューアルし、『最恐戦慄迷宮 —暗黒病棟—』としてオープン致します。

今回のリニューアルは、「戦慄迷宮」の原点である“廃墟”病院のリアリティを追求しながら、人間の感じる“恐怖”とは何かをとことん突き詰め、来場者を心の底から震え上がらせる仕掛けを盛り込んだ内容になっています。中でもメインは、終盤に設けられた一切の光も届かない“暗黒病棟”エリア。暗闇のこの病棟では、視覚は機能せず、手探りで奥へと進まなければなりません。視覚以外の触覚、聴覚、嗅覚が研ぎ澄まされる中、嫌でも恐ろしい想像が広がります。

これまで幾度とリニューアルを繰り返してきた戦慄迷宮史上、最も恐ろしい内容となる『最恐戦慄迷宮 —暗黒病棟—』。この夏、身も凍るほどの恐怖体験をお楽しみください。

【リニューアルのポイント】

ポイント① 『一切の光のない「暗黒病棟」』

病院最深部に「暗黒病棟」が登場。激しく朽ち果てた病棟の暗闇の中、視覚を奪われたことで研ぎ澄まされた感覚が「軋む床」「突然の轟音」「蠢く死体」の恐怖を倍増させる。

ポイント② 『リアリティの追求』

“廃墟”と化した病院の室内や壁面の質感はもちろん、薬品独特の臭い、明滅するライトなど廃墟独特の不気味な空間を再構築。

ポイント③ 『他者と断絶される診察室』

スタートは少人数ごと通される診察室で怪奇動画を見ることから始まる。前後のグループと断絶されることにより、孤独と緊張の中、迷宮へと足を踏み入れる事となる。

【施設概要】

■名 称	『最恐戦慄迷宮 暗黒病棟』
■建 物	二階建て（一部中二階）
■延床面積	約3,000㎡
■所要時間	約50分
■歩行距離	約900m
■利用制限	小学生以上（※小学生は中学生以上の大人の同伴が必要）
■収容人員	1日1,000人～1,500人限定
■利用料金	500円（フリーパス利用不可）

<ストーリー>

今から十数年前のこと。昭和30年代に建てられた「慈急総合病院」は老朽化を理由に病院内の全面改修を行った。手狭だった手術室が3室に増え、「CTスキャン」が導入されるなど特に設備面の強化が図られた。しかし、半年に及ぶ改修工事後に新たなスタートを切った「慈急総合病院」は1年も経たないうちに突如閉鎖されてしまった。莫大な費用をかけたリニューアルの裏に一体何があったのだろうか。一部では闇に葬られた工事中的事故が原因で霊がとりついたとの噂もあると言う。病院は今では荒れ果てた廃墟と化している・・・。

《富士急ハイランド 営業データ》

1. 営業時間	7月	7/22～7/26	【9:00～18:00】
		7/20、7/21、7/27～7/31	【9:00～20:00】
8月	8/1～8/9、8/16～8/31	【8:30～21:00】	
	8/10～8/15	【7:00～22:00】	

※季節により変動あり

2. 休園日 8・9月は無休

3. 料 金 入園料：おとな（中学生以上）1,300円 こども700円
フリーパス：おとな5,000円/中高生4,500円/こども3,700円

4. 交 通 車／新宿から中央自動車道で約80分、河口湖ICに隣接

東京から東名高速道路・御殿場IC、東富士五湖道路経由で約90分

バス／新宿から中央高速バスで約100分、富士急ハイランド下車

東京駅から東名高速バスで約150分、富士急ハイランド下車

電車／JR中央本線大月駅で富士急行線に乗換え富士急ハイランド駅下車

大月駅から約50分